

第4学年〇組 音楽科学習指導案

平成27年10月〇日 〇曜日 第〇時 (音楽室)

指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 単元 につぼんのうた みんなのうた(3)

2 単元の目標

- (1) 日本の秋の情景を想像して表現に生かしたり、合唱したりする活動に進んで取り組もうとする。
- (2) 歌詞の表す情景や旋律の流れの特徴をつかみ、どう表現するか思いや意図をもつことができる。
- (3) 互いの声や伴奏を聴き、曲にふさわしい表現で歌うことができる。

3 学習の計画 (2時間完了)

第1時 歌詞の内容から情景を想像して、主旋律(上のパート)をなめらかに歌う。

第2時(本時) 旋律の重なりの特徴をつかみ、二部合唱する。

4 本時の学習指導

- (1) 目標
 - 曲の特徴をつかみ、それを生かすためにどのように表現するかについて、思いや意図をもつことができる。
 - 旋律の重なりや声の響き合いを感じて、二部合唱することができる。
- (2) 準備・資料
 - 教師……拡大譜
- (3) 関連
 - 3年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (情景を思い浮かべ、気持ちを込めて表現する)
 - 4年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (1), (2) (歌い継がれてきた日本の歌に親しむ)
 - 5年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (歌詞の内容を理解し、旋律の特徴を生かして表現する)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 既習曲「プパポ」を歌う。 2 「もみじ」を歌う。 (1) 上のパートを歌詞唱する。 (2) 下のパートを歌詞唱する。 3 本時の学習課題をつかむ。 歌詞の様子を思い浮かべながら、旋律の関わりを意識して合唱しよう。	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲を歌いながら、楽しい雰囲気づくりをする。 ○ 前時にパートを決めておく。 ○ 旋律線を意識させ、ブレスやフレーズに気を付けて歌わせる。 ○ 下のパートの「かずあるなかに」のリズムや音程を確かめさせる。 ○ 既習曲「プパポ」の掛け合いを想起させ、旋律の動きを捉えて合唱していくことを伝える。
追 求 す る	4 旋律の重なり方から曲の特徴を考え、合唱する。 (1) 1, 2段目と3段目の旋律の流れを比べ、それを生かした表現を工夫する。 ○ 旋律の関わりから、それぞれの特徴をつかむ。 ・ 1, 2段目は紅葉が順番に流れていくように下のパートが後を追っている。 ・ 3段目は音が違うけど同じ動きをしている。 ○ 1～3段目の特徴を生かして、合唱する。 ・ 1, 2段目は波が被さるイメージで歌おう。 ・ 3段目は同じように動くお互いの		<ul style="list-style-type: none"> ○ 拡大譜を用意し、児童の意見を書き込んでいく。 ○ 1, 2段目は掛け合いになっていること、3段目は音高の違う旋律が同じ動きになっていることに気付かせる。 ○ 考えを発表させるだけではなく、拡大譜に旋律線を書き込んだり、ピアノで二つの旋律を弾いて聴かせたりして、視覚や聴覚に訴えて理解を促す。 評 1～3段目の旋律の重なり方の特徴に気付いている。(意見交換) ○ 3段目の出だしの音は音程が取りづらいので、ハンドサインなどで音の高さをイメージさせながら歌わせる。 ○ 3段目の始めの音だけロングトーンで重ねて歌わせたり、ゆっくり歌わせたりして、

	声を聴きながら歌おう。		正しい音程の響きを感じ取らせる。 評旋律の関わりの特徴からどのように歌うかについて、思いや意図をもち、歌っている。 (意見交換, 合唱)
追 求 す る	(2) 4段目の旋律の関わりの特徴をつかみ、それを生かした表現を工夫する。 ○ 旋律の関わりから4段目の特徴をつかむ。 ・ 上のパートの旋律の流れは下に降りていき、下のパートの流れは下から上に上がっている。 ・ 別々の旋律の流れからリズムが一緒になっている。 ・ 最後は同じ音で終わっている。 ○ 4段目の特徴を生かして、合唱する。 ・ 下のパートは最初の音を伸ばしながら、上のパートの旋律の流れを聴こう。 ・ 最後は同じ音で終わるから、周りの音をよく聴いて歌おう。	20	○ パート別に歌い、二つの旋律の流れをつかませたり、拡大譜から旋律の関わりを捉えさせたりする。 ○ 上のパートと下のパートが話しかけるような旋律の流れになっていることに気付かせ、旋律が重なるおもしろさを感じさせる。 ○ 「すそもよう」の部分は、3段目と同じ旋律の重なり方であることに気付かせ、丁寧に歌うようにさせる。 評4段目の旋律の関わりの特徴をつかみ、それを生かして歌っている。 (意見交換, 合唱)
深 め る	5 歌詞の表す様子を思い浮かべ、旋律の関わりや声の響き合いを感じながら合唱する。 (1) 二つの合唱グループに分け、お互いに聴き合う。 (2) 演奏のよかったところや改善点を発表する。 (3) 全体で合唱する。	35	○ 旋律の関わりを確認したり、歌詞が表す情景を振り返ったりして、合唱に生かすようにさせる。 ○ 合唱を客観的に聴くことができるように二つのグループに分け、交替で取り組ませる。 ○ 出てきた意見を全体合唱に生かすように助言する。 ○ 伴奏の変化について触れ、歌だけではなく伴奏も一緒になって美しい響きをつくり上げていることを話した後、まとめとして合唱する。 評旋律が重なることで生まれるおもしろさを感じ取りながら、曲想に合ったやわらかい声で合唱している。 (発表, 合唱)
		45	

(5) 本時の評価規準

- 旋律の重なり方の特徴に気が付き、それを生かした歌い方について自分の言葉で説明している。
(意見交換)
- 響き合いを感じながら、周りとの声の質や音程を合わせて合唱している。
(合唱)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 歌うことを好む児童が多く見られるが、まだまだ仲間と声の質を合わせて歌うところまでは達していない。これまでに部分合唱は経験してきているが、本格的な合唱に挑戦するのは初めてである。

(2) 指導の力点

- 曲をまとまりごとに分け、それぞれの特徴を見つけながら合唱していくことにより、声が響き合うことで生み出されるおもしろさや美しさを子どもたちに感じ取らせられるように構成する。まずは、ロングトーンで美しい響きを感じ取らせた後に、合唱をさせる。そして、学級を二つのグループに分け、聴く時間を設ける。歌いながら響きを感じ取ることが難しい児童もいるため、客観的に響きを聴取させる場面、全体合唱で響きを体感させる場面というステップを踏む。響き合うおもしろさや美しさを体感させつつ、仲間とともに合唱する楽しさを味わわせる。

6 指導と評価